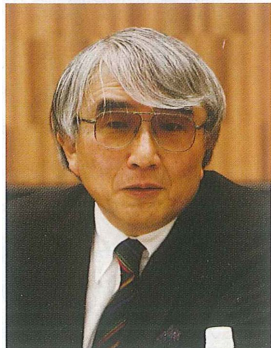


人を知らざるを患ふ

漢文と聞くと尻ごみする人が多くなりましたが、私は文語で訓読する漢文のハードな感じが好きです。例の「子曰はく……」という『論語』などは実にいいものです。凝縮された硬質な表現はもちろん、時に深々とした生きる智慧を簡潔に伝えてくれるからです。

そのひとつに「子曰はく、人の己を知らざるを患へず。人を知らざるを患ふ」という一文があります。孔子はこう言った——他人が自分のことを知ってくれなくとも思いわずらう必要などない、むしろ他人を知らないことのほうが問題なのだ。

自分を他人に認めさせようと苦心するより、多くの他人を深く観察して理解することのほうが大事だよ、と孔子は説いているわけです。なるほど、と思います。世の中の人々をよく観察して人間通になれ、というわけです。人間をよく知っていれば、自分がどんな人間として在るべきなのか、見通しがつく。若い時には、まずそういう努力をしてごらん、と『論語』は説いているはずですよ。



学長 島田 修三